

1 平成30年度東京都自立支援協議会活動状況

第5期 東京都自立支援協議会委員名簿(平成30年度)

平成30年4月1日～平成31年3月31日

	番号	名前	所属	番号	名前	所属
会長	1	安達 勇二	文京区障害者基幹相談支援センター 所長	11	川上 鉄夫	葛飾区福祉部障害者施設課長
	2	安部井 聖子	東京都重症心身障害児(者)を守る会 会長	12	黒川 常治	社会福祉法人巣立ち会 ピアスタッフ
	3	新井 勲資	清瀬市健康福祉部障害福祉課長	13	佐々木 康教	足立区福祉部障がい福祉課西部援護係長
	4	岩本 操	武蔵野大学 人間科学部人間科学科 教授	14	清家 政江	社会福祉法人JHC板橋会 障害者就業・生活支援センター ワーキング・トライ センター長
副会長	5	海老原 宏美	特定非営利活動法人自立生活センター・東大和 理事長	15	西田 伸一	公益社団法人東京都医師会理事
	6	小内 亜弥子	渋谷区保健所地域保健課保健指導主査	16	平井 寛	社会福祉法人東京緑新会理事 多摩療護園園長
副会長	7	加藤 尚子	国立市しょうがいしゃ支援課相談支援係長	17	本多 公恵	社会福祉法人滝乃川学園 地域支援部施設長
	8	金川 洋輔	地域生活支援センター サポートセンターきぬた 地域移行コーディネーター	18	眞山 和久	社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会本人部会 ゆうあい会運営委員
	9	金澤 正義	社会福祉法人武蔵野会 東堀切くすのき園 施設長	19	八木 良次	障害者施策推進部地域生活支援課長
	10	加納 秀和	世田谷区玉川総合支所保健福祉センター 保健福祉課障害支援担当係長			

※ 五十音順

平成30年度 東京都自立支援協議会 活動のまとめ

第5期テーマ(平成29・30年度)： 都と地域の協議会活動の双方向性を強化し、東京都における地域課題を考える

協議事項に基づく検討 「東京の協議会活動を活性化させる情報発信・情報収集の仕組み作り」

第1回本会議 6月4日(月)13:30～16:30

<報告事項>

- 「平成29年度版 東京都内の自立支援協議会の動向」調査結果について
- 都の計画等について
 - 東京都障害者・障害児施策推進計画(平成30年度～32年度)
 - 東京都地域福祉支援計画(平成30年度～32年度)
 - 東京都障害者への理解促進及び差別解消の推進に関する条例(仮称)

<協議事項>

- 平成30年度 東京都自立支援協議会協議事項について
- 平成30年度 東京都自立支援協議会活動計画について

<グループ討議>

<全体討議>

<その他>

第2回本会議 2月26日(火)13:30～16:30

<報告・情報提供事項>

- 地域生活支援拠点等の整備について
- 日中サービス支援型共同生活援助について
- 障害を理由とする差別を解消するための取組について

<協議事項>

- 「平成30年度版 東京都内の自立支援協議会の動向」調査票(案)について
- 平成30年度及び第5期東京都自立支援協議会活動のまとめについて

<グループ討議>

第6期東京都自立支援協議会活動に向けて

<全体討議>

- 第6期東京都自立支援協議会活動に向けて
- その他

<連絡事項>

地域協議会の情報把握・共有

地域自立支援協議会交流会
日時：8月28日(火)13:30～17:00
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

協議会であがった課題はどこに行ってしまうのか

<自立支援協議会本来の役割>

- ① したら、自分たちの自立支援協議会で、地域課題を抽出し、共有できるか
- ② したら、自分たちの自立支援協議会に、地域課題をあげることができるか

東京の協議会活動の普及啓発

東京都自立支援協議会セミナー
日時：12月12日(水)13:30～16:30
会場：練馬区立区民・産業プラザ Coconeriホール

地域移行・地域生活のリアルとハウツー
～障がいのある人が地域で安心して暮らすために～

基調講演 「今、なぜ、地域移行なのか」
パネルディスカッション
「知りたい、聞きたい、伝えたい！地域移行」

地域協議会の情報共有・発信

平成30年度版
東京都内の自立支援協議会の動向

調査項目、情報発信方法の検討

- ・ 地域自立支援協議会の様子がわかるよう具体的な取組を記述してもらう。
- ・ 各区市町村の地域自立支援協議会の活動状況を一覧にまとめ、動向集に掲載する。
- ・ 動向集と同内容をホームページに掲載する。

平成30年度 地域自立支援協議会交流会 実施報告

1 概要

目的: ①地域自立支援協議会関係者の交流の場を設定し、活動状況に関する情報交換を実施することにより、地域自立支援協議会の円滑な運営や活動の活性化を図る。
②部の自立支援協議会として、地域協議会の活動状況について状況を把握する。

日時: 平成30年8月28日(火曜日) 13時30分から17時まで

場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟

対象者: 地域自立支援協議会委員・事務局関係者、区市町村職員
東京都自立支援協議会委員・事務局関係者

周知方法: 各区市町村の地域自立支援協議会会長、所管課長宛てに通知を発出
各区市町村の自立支援協議会所管へメール及び電話連絡

参加者数: 131名

- ・区市町村参加者 98名(15区20市2町)
- ・東京都自立支援協議会委員 16名
- ・都事務局関係者 17名

2 プログラム

テーマ 協議会であがった課題はどこにいってしまうのか
～自立支援協議会本来の役割～

ミニシンポジウム

今年度のテーマ選定理由

各区市町村の現状(東大和市、板橋区、武蔵野市)

<パネリスト>

- 東大和市: 東京都自立支援協議会副会長 海老原 宏美 氏
(特定非営利活動法人自立生活センター・東大和理事長)
- 板橋区: 東京都自立支援協議会委員 清家 政江 氏
(社会福祉法人JHC板橋会障害者就業・生活支援センター
ワーキング・トライセンター長)
- 武蔵野市: 東京都自立支援協議会会長 岩本 操 氏
(武蔵野大学人間科学部人間科学科教授)

グループ討議の進め方

グループ討議

- (1) 他地域の自立支援協議会関係者7~9人で意見交換(12グループ)
どうしたら、自分たちの自立支援協議会で、地域課題を抽出し、共有できるか
どうしたら、自分たちの自立支援協議会に地域課題をあげることができるか
- (2) 区市町村ごとで振り返り
各グループで検討したことを共有
区市町村に戻って、まず、具体的に何をしますか

全体会

- (1) 各区市町村からの発表
「私たちは〇〇区市町村に戻ったら、まず、_____をします。
なぜなら、_____ (理由) だからです。」
- (2) 東京都自立支援協議会会長によるまとめ

3 プログラム構成のねらい

(第1回本会議グループ討議及び実行委員による検討より)

1 協議会本来の役割

- 協議会本来の役割がつかめない。部会は活発だが、協議会の全体会は何をするのか、個別支援から地域課題を拾い出して、それを解決するためにどうしたらいいかという議論ができていない。
- 部会はすごく活発で、成果物を作ったり手ごたえはある。部会は盛り上がりつつあるが、全体会でそれをどうまとめれば良いかが難しい。
- 個別支援から地域課題に上がっていない。個別課題が地域の課題として取り上げられ、解決のプロセスや方法を見つけるという仕組みに繋がっていない。ずっと課題は課題のままというイメージがある。
- 個別の支援から見えた課題を地域課題に上げるには、それを課題と認識して、地域の課題だと共感する人を増やしていく。そうやって上がった地域課題をどう解決していくのかを協議する場に協議会がなっていないのではないか。「協議会」なのに、各部会からの「報告会」になっているように感じる。
- 地域課題が出たことによって、そこから制度改革に繋がれたとか、何か地域にインフォーマルなグループが立ち上がったとか、課題解決に向けた体制が地域の中できているなら情報共有できると良い。

2 交流会終了後の取組の促進

- 交流会でせっかくディスカッションしても、区市町村に戻った後、取り組んでいないのではない。取り組める仕組みがそもそもないのではない。どうやったら自分たちの協議会に今回のディスカッション結果を持ち帰れるかを考えられると良いのではない。
- 他の区市町村の良い取組をどうやったら自分の区市町村で実行できるか、どうやって協議会の中に話を持ち込めるかについて、最後に区市町村で話し合ってもらえば、行動に繋がるのではない。
- なかなか解決しない課題に、どうやったら取り組んでいけるか、解決に向けた具体的な取組、一人ひとりが行動する小さなステップを考えていけると良いのではない。

4 参加者アンケート

回答数: 94 (回収率: 82.5%)
東京都自立支援協議会委員からの回答を含む。

ミニシンポジウム

非常に参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	無回答
21 (22.3%)	68 (72.4%)	2 (2.1%)	0 (0.0%)	3 (3.2%)

グループ討議・全体会

非常に参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	無回答
36 (38.3%)	57 (60.6%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

<自由意見>

- 「地域課題はどこに行ってしまうのか」という課題にとっても共感し、良かった。他区市町村の現状から学ぶことがたくさんあった。(複数あり)
- 自立支援協議会の機能について考えられる良いテーマだった。
- 自分たちの自治体の当事者性の不足を感じた
- 自立支援協議会は、行政職員と他委員とでは、見方、捉え方が違うと感じた。
- まず何をするか、行動が明確になって良かった
- 自分たちの地域の自立支援協議会の課題が良くわかり、地域に戻って取り組むべきボールが投げられたのはとても良かった。
- 時間配分が良かった
- グループ討議の時間がもう少しほしかった。(複数あり)
- グループ討議では、他グループの声が重なり、うまく聞き取れなかった。

平成30年度 東京都自立支援協議会セミナー 実施報告

1 概要

目的：東京における共通課題や取組、協議会活動の活性化策などについて、本会議での検討等を踏まえた講演等を実施し、広く関係者へ情報発信を行い、自立支援協議会活動の普及啓発を図る。

日時：平成30年12月12日（水曜日）13時30分から16時30分まで

場所：練馬区立区民・産業プラザCoconeriホール

対象者：一般都民、障害当事者・家族、地域自立支援協議会委員・事務局関係者、区市町村職員、相談支援事業所等職員、障害者支援に携わる者、その他

広報：チラシの作成・配布（約4,000枚）

当センター、東京都障害者サービス情報ホームページへの掲載
区市町村主管課長会等での説明、周知依頼
「福祉保健」10月号掲載、区市町村広報誌等への掲載依頼

参加者数：286名

(1) 受講者 246名（申込者 322名）

所属等別内訳（複数該当があるため、受講者数と一致しない。）

所属等	人数
障害当事者・家族	14名
相談支援事業所	92名
障害福祉サービス等事業所	73名
就労支援機関等	10名
医療機関	6名
入所施設等	19名
地域自立支援協議会委員等関係者	21名
民生委員・児童委員	7名
行政	56名
その他	16名
合計	314名

(2) 聴講者 40名

- ・東京都自立支援協議会委員
- ・東京都自立支援協議会連絡調整会議委員
- ・東京都心身障害者福祉センター職員
- ・東京都自立支援協議会委員及び登壇者の支援者

2 プログラム

テーマ 地域移行・地域生活のリアルとハウツー
～障がいのある人が地域で安心して暮らすために～

第1部 基調講演 「今、なぜ、地域移行なのか」

<講師>

吉野 智 氏（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害福祉専門官）

(概要)

- 精神保健医療福祉の動向、障害福祉施策の動向、障害福祉計画等と国の基本指針、平成30年度障害福祉サービス等報酬改定などに関する講演
- ・政策上、地域移行という病院や施設からの地域移行だが、地域包括ケアシステムを主眼に考えれば、病院や施設の機能も含めて障害者の方がどのような生活を望んでいるのかが大切
 - ・どのような生活を望んでいるのかを知るためには、その意思の表明をしっかりと受け取っていかなければならない。
 - ・自立支援協議会の中で、行政と医療と福祉がしっかりと膝を突き合わせて考えながら、当事者の方を中心に、どのような街づくりをしていくかを議論していくことが大切

第2部 パネルディスカッション

「知りたい、聞きたい、伝えたい！地域移行・地域生活のホンネ」

<パネリスト>

海老原 宏美 氏（東京都自立支援協議会副会長
特定非営利活動法人自立生活センター・東大和理事長）

村中 友江 氏

久保 玄 氏（社会福祉法人原町成年寮 サザンクロスかつしか所長）

西 美紀子 氏

小真 菜々 氏（相談支援センターあらかわ 地域移行コーディネーター）

<コーディネーター>

岩本 操 氏（東京都自立支援協議会会長、武蔵野大学人間科学部人間科学科教授）

<モデレーター>

吉野 智 氏（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害福祉専門官）

(概要)

当事者及び支援者それぞれの立場から、地域移行・地域生活に至るまでの経緯や、地域移行・地域生活をしたいと思った理由、現在の地域生活の状況等に関する発表とディスカッション

3 プログラム構成のねらい

（第1回本会議グループ討議及び実行委員による検討より）

1 当事者性

○昨年度は当事者性みたくないものが、十分ではなかったのではないかな。

○できるだけいろいろな方に参加していただき、一方的な発信ではなく、意見交換ができるような形にできたらいい。当事者の方の意見、当事者の声をもっと前面に出していただき、地域で生きにくさを抱えている人達の声や生活の有り様を支援者側がどう受け止めて、地域の取組に繋げていけるか、参加者みんなで考えるセミナーにしたい。

○当事者の方を主役としたパネルディスカッションができると、その場にいる人達との距離がぐっと近くなるのを感じられるので、できれば当事者の方を中心にした。

○当事者の方を中心に、実際の生活にまつわる様々なエピソードや創意工夫などを持ち寄っていただき、その中から我々でもできるような取組をみんなで学び合うことができればいいのではないかな。

2 地域移行、地域生活

○地域移行の問題、地域生活のリアルみたいなところ、所得補償の問題、住居の問題、医療・健康の問題などを取り上げられると良いのではないかな。

○精神障害者の長期入院の問題がある。地域移行がなぜ進まないか、進められない背景には精神障害者への差別の問題が潜んでいるのではないかなと思うので、いろいろと掘り下げる内容として、地域移行をテーマにするのはいいのではないかな。

○地域で生活する方に対してサービスの支給決定が行われるが、支給決定では補えないものが日常生活にはたくさんある。ちょっとした手助けを活性化し、地域がその人をどう支えていくかというところに繋がるという。

○当事者の方を支える人達と、こんな工夫をしたらこんなふうに住居ができたという話をしてもらい、それだったらうちの地域でもできそうと思ってもらえたらいい。できれば地域で生活する当事者の方と支援者の方達、近所の皆さんのような発表ができればいいのではないかな。

4 参加者アンケート

回答数：190（回収率：66.7%）

第1部 基調講演

大変参考になった	参考になった	普通	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった	無回答
69 (36.3%)	96 (50.5%)	20 (10.5%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	3 (1.6%)

<自由意見>

- 「地域移行」というと精神障害にスポットが当たりやすい。知的障害、身体障害の方へのアプローチ、また、地域でのサービスの充足など課題は多い。協議会としてどうアプローチしているか、市内でどう全体化しているかが課題であると思った。
- 現在の障害者福祉の方向性について、より理解を深めることができた。一方、時間の関係もあると思うが、話の進め方がやや急ぎ足だったことは残念だった。

第2部 パネルディスカッション

大変参考になった	参考になった	普通	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった	無回答
115 (60.5%)	59 (31.1%)	7 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (4.7%)

<自由意見>

- 意思決定には体験やイメージが大切なこと、伝えることが難しい人だからと移行しない口実にはいけないことを学んだ。何よりも、ご本人達の状況をご本人達の言葉で聞くことができたのは貴重な体験だった。
- 当事者の話を聞ける機会はあまりないので、良い機会だった。とても心に響いた。今後の支援につなげたりモチベーションを上げたりしていきたい。
- 障害者の生きる力、何を知らたいか、それらをどう引き出すか、同じ目線で一緒に考えていくことの大切さを教わった気がする。
- 地域移行前後の当事者のリアルな状況が理解できた。利用後、生活が豊かに変化してきていると見てとれた。